

土地利用検討状況

● 土地利用のめざすもの

跡地利用指針(H18)による方向性

- ・持続的で魅力ある都市農業の振興
- ・「緑」を享受する首都圏郊外の自然レクリエーション空間
- ・広域の防災活動拠点・広域機能の立地
- ・交通利便性の向上に資する基盤整備

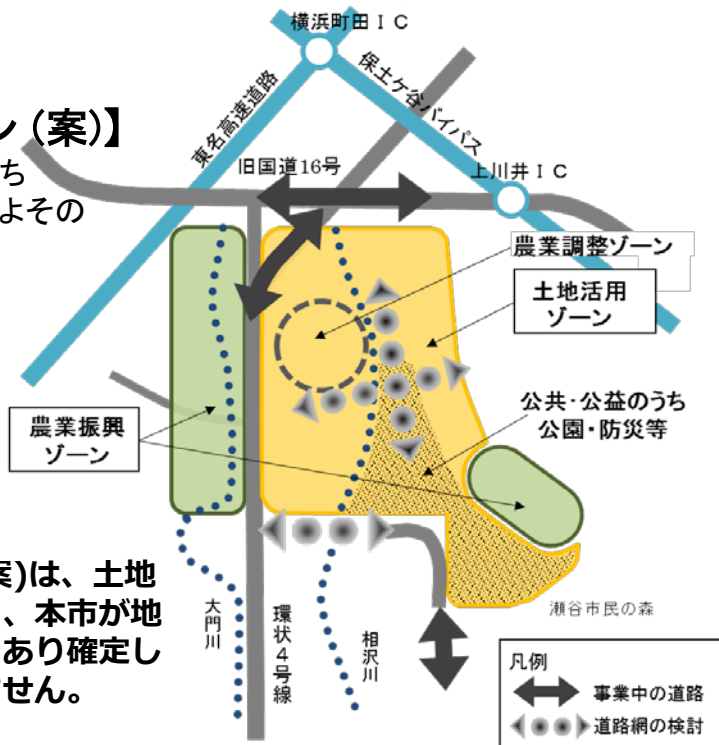
新たな視点による方向性

- ・本市を含む広域的な課題解決や多様な市民ニーズに対応できる市街地を形成

要素		意味
農業振興		活力ある都市農業の展開
土地活用	活力創造	産業振興、賑いや交流を促進 (主に民間が参入する施設を想定)
	公共・公益	本市を含む広域的課題や地域の課題を解決 (主に公共・公益的性質のある施設を想定)

【跡地利用ゾーン(案)】

土地活用ゾーンのうち公園・防災等のおおよその位置を表示した例



※跡地利用ゾーン(案)は、土地利用検討にあたり、本市が地権者に示した例であり確定したものではありません。

郊外部の再生に資する新たな活性化拠点の形成に向けて、農業振興、活力創造、公共・公益の3つの要素で地権者の皆様と土地利用の検討

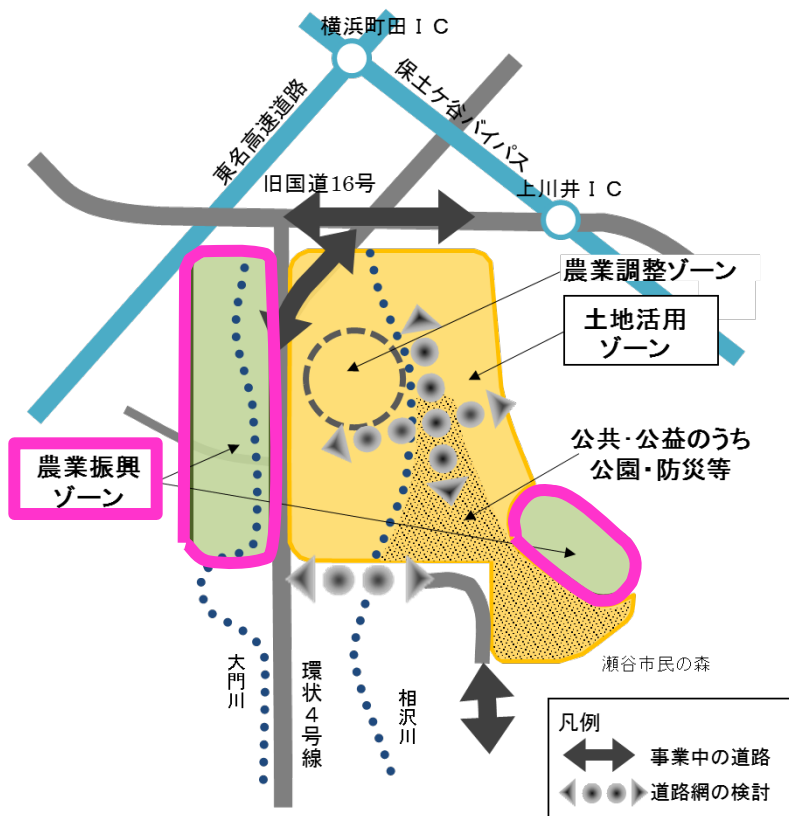
29年度の上半期は、農業振興や土地活用（都市的な土地利用）について、地権者の皆様が現状の課題や将来の土地利用を考える勉強会を開催

土地利用検討状況

※跡地利用ゾーン(案)や機能・施設は、土地利用検討にあたり本市が地権者に示した例であり、確定したものではありません。

● 検討経過(農業振興)

跡地利用ゾーン(案)



農業振興

活力ある都市農業の展開を目指していくために検討する 機能・施設

▶ 整備を検討する農業基盤施設

農道 **施設園芸** **かんがい排水施設**

市民農園 **観光農園** 等

▶ 検討する農業振興の方向性・方策

農業所得向上、生産効率化、先進技術導入、法人化、企業参入等

▶ 土地活用ゾーンとの多様な連携

□ 勉強会で地権者から出されている 将来のイメージ □

「交流型農業の展開」

- ・ 周辺土地利用と連携した農産物供給の仕組みづくり
- ・ 滞在型の多様な体験や交流が楽しめる農業の展開

「良好な農環境の保全」

- ・ 現状の農地形状をベースに農業環境改善
- ・ 拠点空間を兼ね備え、生産農家とともに市民農園等多様な活用形態のある農業環境など

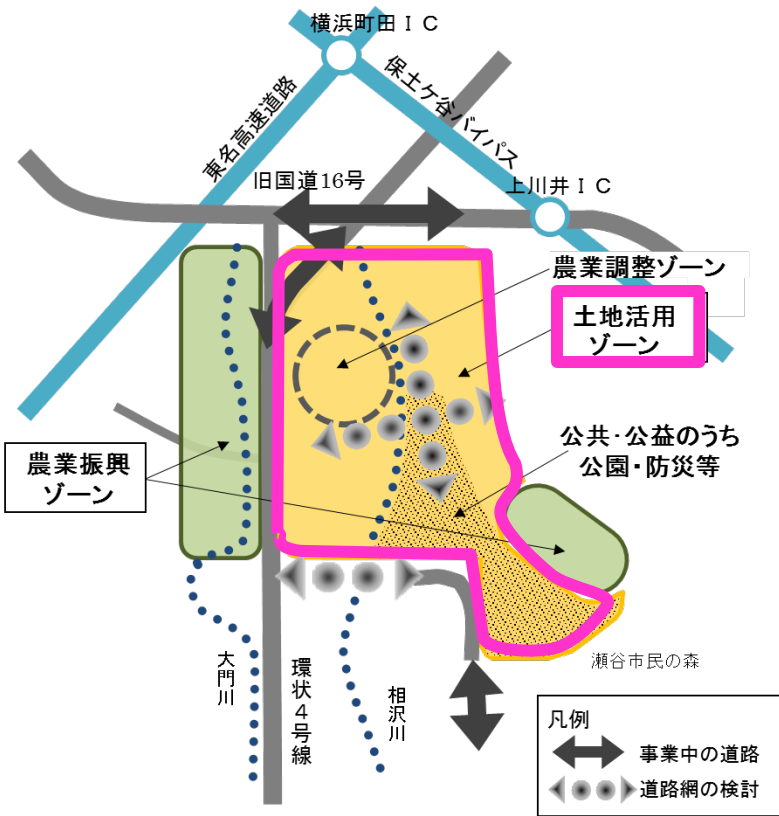
土地利用検討状況

● 検討経過(土地活用)

(都市的な土地利用)

※跡地利用ゾーン(案)や機能・施設は、土地利用検討にあたり本市が地権者に示した例であり、確定したものではありません。

跡地利用ゾーン(案)



活力創造

産業振興、賑いや交流を促進するため整備の
必要性や可能性を含めて検討する機能・施設※
(民有地を中心に)



生産・加工・販売などが一体となった、
人が集い、農と交流する場

※ 整備の必要性、民間進出の可能性も把握しながら 内容や規模を検討

公共公益

本市を含む広域的課題や地域の課題を
解決のため、整備する方向で検討する機能・施設
(国有地を中心に)



- 勉強会で地権者から出されている 将来のイメージ □
- 「多様な人を呼び込む活気や賑わいのあるまち」
- 「地域全体にプラスとなるまち」
- 「農業の活性化につながるまち」
- 「安心安全で利便性の高い基盤整備」

土地利用検討状況

● 今後の検討

- ◎ 現在、民有地の地権者全体で将来の土地利用を検討し意思決定していくための「まちづくり協議会（仮称）」の設立に向けて、地権者の発起人会が立ち上がり、設立の準備を進めています。
- ◎ 横浜市では、年内に設立される予定の地権者「まちづくり協議会（仮称）」とともに土地利用の検討を行いながら、計画のとりまとめを目指していきます。

【計画策定までのスケジュール】

